

育児ストレス緩和へ

泣く理由「見える化」

徳大生らアプリ開発

徳島大学の学生を中心としたグループが、赤ちゃんの泣き声をイラストに  
変換し、泣いている理由や感情を伝えるアプリ「あわべび」の開発を進めており、  
10月下旬にアプリ販売市場「アップストア」で初期版を公開する。運営には泣き  
声に応じた赤ちゃんをあやす方法を自動表示される機能なども追加し、ハイショ  
ックアプリを予定。泣き声に悩む両親のストレスを緩和し、子育てを支援した  
り考えて。

来月下旬 初期版公開

は無料。機能追加に伴っ  
て有料にする予定。

企画の中心は、医学部医  
学科6年の福本生さん  
(25)と同4年の中井洗さん  
(22)。学内で知り合った  
2人は、新型コロナウイルス  
が流行中で母親の4人に1  
人が発症するとされている  
産後うつ病の現状を知って  
「未来の親である自分  
たちが若い世代が課題解決  
し、家族を苦しめないよ  
うの思いを強く持った。う  
つを引き起こすストレス要  
因の一つとして泣き声に注  
目し、アプリを使って泣き



子育て支援アプリ「あわべび」を開発する福本さん  
(右)と中井さん＝徳島市の徳島大蔵本キャンパス

声に顔を凝らしを減らさう  
と、昨年6月からエンジン  
アプリアイデア仲間と共  
に企画開発に取り組みし  
て、赤ちゃんの泣き声のサ  
ンプルを集めており、これ  
まで福本さんが子育てイ  
ベントの会場でも直接音  
たり、母親を呼びかけて  
通信アプリ「LINE」の  
「イン」で提供し、およ  
び、来夏までに、2万件を  
目標にサンプルを集める  
福本さんは「アプリが泣  
き声の理解促進につな  
がり、両親ももっと子育て  
を学びたいと願っている  
なればいよいよ実現でき  
る多くの人に応援してほ  
しい」と話す。

25日までにクラウドファン  
ディングサイト「crowdfunder  
.jp」で「あわべび」のイ  
ンターネット版の開発費  
の約3万円を募集する  
予定。問い合わせ先は、  
「あわべび」開発チーム  
「@15wvdbb」  
(東京営業部)

県産品PR法考え実践へ

徳大生 ターンテーブルで就業体験



徳島大の学生6人が、  
県の情報発信・交流拠点  
施設「ターンテーブル」  
(東京都渋谷区)で、県  
産品の効果的なPR法を  
考えるプロジェクトを取  
り組んでいる。考案した  
アイデアをターンテー  
ブルで実行に移し、売り上  
げアップへの貢献を目指  
す。企業や自治体を抱え  
る課題の解決を目指す徳  
島大の「実践型インタ  
ンシップ」の一環。  
学生のうち4人が20  
22日、ターンテーブルを  
訪れ、県産野菜や加工品  
などが並んだマルシェや  
レストラン、ホテルを見  
学。酒井大輔専務取締役  
(18)は「ターンテー  
ブルは幅広い層が利用し  
ているのが強みだと感じ  
ている。総合科学部1年の  
秋山佳花さん(18)は「ア  
イデアがあり、参考にな  
った」とそれぞれ話した。  
実践型インターンシッ  
プにはこのほか、学生12  
人が参加。鳴門、三好、  
那賀の3市町が受け入れ  
ている。(北野昇)

ドローン操縦を  
障害者の仕事に

徳大など料理運ぶ実証実験



ドローン操縦を障害者の新たな仕事にしつつ、徳島大が関係企業の研究  
グループが協力を得た。障害者少ない河川上空を用いたドローン物流の実  
証実験が、徳島大と関係企業で進められている。12日に徳島市の新川で初  
めての実証実験が行われ、在学中の学生も参加した。この実験は、ド  
ローンで食料を配達する実験だ。

徳島大は新川に入った橋を越えたド  
ローンで多分ストランド、高島  
・ハンツハウズ、3の上空、対岸の  
ドローンで配達する実験だ。実  
証実験が、徳島大と関係企業で  
進められている。12日に徳島市  
の新川で初めての実証実験が行  
われ、在学中の学生も参加した。  
この実験は、ドローンで食料を  
配達する実験だ。

徳島大は新川に入った橋を越えたド  
ローンで多分ストランド、高島  
・ハンツハウズ、3の上空、対岸の  
ドローンで配達する実験だ。実  
証実験が、徳島大と関係企業で  
進められている。12日に徳島市  
の新川で初めての実証実験が行  
われ、在学中の学生も参加した。  
この実験は、ドローンで食料を  
配達する実験だ。

海陽町のベンチャー企業・海藻ラボが、年間を通じた海藻の出荷体制を整え、7月から本格的な販売を始めた。徳島大や徳島文理大と連携して進めていた陸上養殖で、2種類の海藻の養殖に成功し、季節を分けた生産が可能になった。

2種養殖成功で季節分け生産  
年間販売 本格化

手掛けているのは、ミリン  
ソウとオサノリ。ミリン  
ソウは水温15℃と30℃と比較的高  
水温で成長するため5月から  
11月にかけて養殖し、10℃20  
度とやや低い水温が適したア  
オサノリは11月から5月まで  
育てる。

ミリンソウはミリン科の一  
種で赤色が特徴。沖縄ではつ  
つと煮の材料として親しまれ  
ている。徳島大が海陽町で地  
下水にまる陸上養殖の試験  
を行ったところ、豊富な鉄分  
などの特長が確認された。地  
下水に鉄分をばいせんとす  
る。徳島大が海陽町で地  
下水にまる陸上養殖の試験  
を行ったところ、豊富な鉄分  
などの特長が確認された。地  
下水に鉄分をばいせんとす  
る。

海陽のベンチャー・海藻ラボ



陸上養殖で生産されている  
ミリンソウとオサノリ

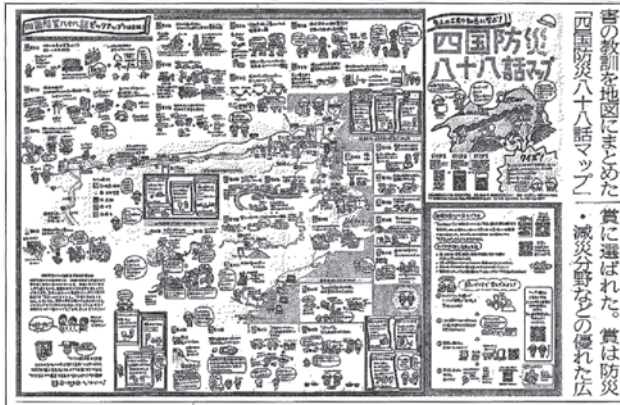
向けた養殖を進めてきた。ア  
オサノリは食物繊維やミネラ  
ル、ビタミン類が豊富に含ま  
れている。徳島大が海陽町で  
下水にまる陸上養殖の試験  
を行ったところ、豊富な鉄分  
などの特長が確認された。地  
下水に鉄分をばいせんとす  
る。

13日、同社の中野社長  
らが県庁で会見し、「今回は  
それを5kgを収穫し、来期  
以降は倍以上に増やしてい  
たい」と事業計画を述べた。  
(石橋義典)

# 四国防災八十八話マップ

## 土木広報大賞 全国最優秀

### 徳大など製作 災害伝承に貢献



徳島大環境防災研究センターが、土木広報大賞「全国最優秀」の賞を受賞した。賞は防災・四国防災八十八話マップ。被災地をめぐり、被災者の声や歴史を伝える。マップは、国土交通省四国防災八十八話マップを基に、四国防災八十八話を集めた。四国防災八十八話を基に、四国防災八十八話を集めた。四国防災八十八話を集めた。四国防災八十八話を集めた。

2022年4月13日 [徳島新聞]

土木広報大賞は、018年度に始まり、3回目。教(環境防災教育)は、災害伝承の担い手として貢献できたのを誇りに感じている。次の担い手にバトンをつなげるよう活動していきたい」と話した。

# 南海トラフ地震 砂浜流出に備え

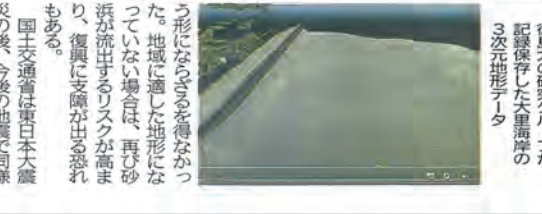
## 県内の全海岸 3Dデータ化

### 地形復元へ記録保存

徳島大の研究グループが、南海トラフ巨大地震の津波による砂浜の流出に備え、県内の海岸の3次元データを保存する取り組みを始めた。東日本大震災の津波では、砂浜が流出した。元データのなかったため、被災前の形を再現は困難だった。研究グループは、無人機ドローンで撮影した詳細なデータを残すことで、流出後の復元や植生回復に役立てる。



徳島大の研究グループが、記録保存した大規模な3次元地形データ。元データのなかったため、被災前の形を再現は困難だった。研究グループは、無人機ドローンで撮影した詳細なデータを残すことで、流出後の復元や植生回復に役立てる。



徳島大の研究グループが、記録保存した大規模な3次元地形データ。

2022年5月7日 [徳島新聞]

# 地域の魅力発掘 観光コース作り

## 徳大生と阿波市阿波町住民

阿波市活性化に取り組む地元住民が、徳島大生と連携して阿波町(元町)周辺を巡るマイクロツーリズムのコース作りに取り組んでいる。地域には有名な菓子店や子どもたちの遊び場・ツリハウスの森がある。市内外から多くの人々が訪れており、周辺の見どころにも足を延ばしてもらおうと企画した。学生は史跡や名所について住民から学びながら、現地調査やモニターツアーを通して検討を進める。来年1月中の完成を目指す。



地域住民(左端)から阿波町の名所について話を聞く学生ら=阿波市阿波町大道北

2022年11月21日 [徳島新聞]

# 不登校対策細やかに 元木氏 官民参加、支援協設置 教育長

一層のきめ細かな対策を進める。新型コロナウイルスをはじめ、未知なる感染症対策の強化に向けて専門人材の育成にどう取り組むか。知事、施設内クラスターを防ぐために重要な役割を果たしている「感染管理認定看護師」を県内で養成するため、徳島大大学院看護リカレント教育センターと連携して来年4月に教育課程を開講する。現在の22人から倍増を目指し、毎年約10人、3年間で計約30人を養成する。



元木章生氏 (自民)

# 県など美波で防災講演会

南海トラフ巨大地震が起きる可能性が高まった際、気象庁が発表する臨時情報について理解を深めてもらう講演会(県など主催)が、美波町(美波町)で26日夜、美波町民会館のホールで、住民55人が参加して、11月未だに10市町で順次開かれる。徳島大環境防災研究センターの中野特命教授が、地域防災学が、東西に震源域が長い南海トラフ巨大地震は、東西の片側だけで地震が起きる場合があり、次の地震に備えるため、警戒度が高まっていることを強調し、警戒度が最も高い「半明」警戒度が最も高い「半明」警戒度は、震源域の東側でマグニチュード8クラスの地震が起きる場合、美波町では震度4から5程度の揺れや高さ10メートル程度の津波が発生し、相当の混乱状況になると懸念した。

# 地震臨時情報 理解を深めて

南海トラフ巨大地震の臨時情報などについて解説する中野特命教授=美波町民会館の町コミュニティホール

県内外の防災、減災の対応事例を紹介し、被害を最小化するために住宅の耐震化や高台移転が重要になる」と話した。(杉本安子)



南海トラフ巨大地震の臨時情報などについて解説する中野特命教授=美波町民会館の町コミュニティホール

2022年10月28日 [徳島新聞]

2022年6月17日 [徳島新聞]

# ホノルルマラソン 完走後押し20年

徳大講座 1200人超受講



リレー形式でフルマラソンの距離を走る受講生＝徳島市の徳島中央公園（徳島大提供）

米ハワイで行われるホノルルマラソンの完走を目指す徳島大の公開講座が、2002年目の開講から20年を超えた。初心者を対象に毎年開き、22年度までに1200人以上が受講。県内の市民ランナーの育成に貢献してきた。19年度以降、ホノルルマラソンを目標に、

## 市民ランナー育成に貢献

運動習慣を身に付けてもらうべく、講座は、毎年、マラソン経験のない初心者を対象に、20歳以上の受講生は20歳を超えた。初心者を対象に、12月の本講座の完走を目指して、

2023年1月14日 [徳島新聞]

コロナの流行が始まり、18年度の出場を最後に遠ざかっている。22年度は過去から継続する受講生を含め約300人が参加し、9日は徳島市の徳島中央公園でフルマラソンの距離をリレー形式で走るイベントを開催。同大と地域共創センターは、11月からの新生の募集を始める予定で、誰とでも参加できる。5〜12月の計11回受講した1期生のうち、

## ビジネスプラン作成学 徳大で実践塾 40人が参加



「ビジネスプラン」を学ぶ「まちしごとファクトリー」の実践塾。徳島大、地域の起業や担い手育成を支援する「まちしごとファクトリー」(徳島大、県信用保証協会、徳島新聞)が主催する実践塾が22日、

### まちしごとファクトリー

地域の起業や担い手育成を支援する「まちしごとファクトリー」(徳島大、県信用保証協会、徳島新聞)が主催する実践塾が22日、

2022年10月23日 [徳島新聞]

## 徳大生設立の模擬会社 手作り髪飾りなど ECサイトで販売



手作りの髪飾りなどを販売する林さん(左)と、容器にオリジナル写真を貼ったシャムを提供する立石さん＝徳島市内

徳島大の学生が、模擬会社を立ち上げ、オリジナルのアクセサリーや、オリジナルのシャムを販売している。本学は理工学部や総合科学部などの6人が参加。3人ずつに分かれて8月に模擬会社を設立し、事業内容や取組計画を練ってきた。林さんは「かわいい髪飾りが好きなので、自分のセンスで作った商品を発信したい」と話している。立石さんは「オリジナルのシャムを販売したい」と話している。

2022年9月28日 [徳島新聞]

## 地域と歩む起業家に

まちしごとファクトリー 地域での起業や人材育成を支援する「まちしごとファクトリー」(徳島大、徳島県信用保証協会、徳島新聞社主催)のキックオフセミナーが6月11日、徳島大常三館キックオフセミナーであった。過去のまちしごとファクトリーを支援した4人の起業家が登壇し、会場とオンラインで約50人が参加。事業紹介やディスカッションを通して事業立ち上げのポイントを聞いた。当日の模様を紹介する。(事務局・橋本真珠)

## 信頼大切 評判が実を結ぶ 頼り合う関係 意識し築く 太田さん

「まちしごとファクトリー」のキックオフセミナーに登壇した太田さん。太田さんは、地域の起業や人材育成を支援する「まちしごとファクトリー」のキックオフセミナーに登壇した。太田さんは、地域の起業や人材育成を支援する「まちしごとファクトリー」のキックオフセミナーに登壇した。

## 元木さん「狭さ」利点 口コミで拡大 元木さん「狭さ」利点 口コミで拡大

「まちしごとファクトリー」のキックオフセミナーに登壇した元木さん。元木さんは、地域の起業や人材育成を支援する「まちしごとファクトリー」のキックオフセミナーに登壇した。元木さんは、地域の起業や人材育成を支援する「まちしごとファクトリー」のキックオフセミナーに登壇した。

## 徳大生設立の模擬会社 手作り髪飾りなど ECサイトで販売

徳島大の学生が、模擬会社を立ち上げ、オリジナルのアクセサリーや、オリジナルのシャムを販売している。本学は理工学部や総合科学部などの6人が参加。3人ずつに分かれて8月に模擬会社を設立し、事業内容や取組計画を練ってきた。林さんは「かわいい髪飾りが好きなので、自分のセンスで作った商品を発信したい」と話している。立石さんは「オリジナルのシャムを販売したい」と話している。

2022年7月8日 [徳島新聞]

|   |  |   |
|---|--|---|
| <p><b>キックオフセミナー</b></p> <p>6月11日</p> <p>9時15分～10時</p> | <p><b>まちしごと実践塾</b></p> <p>5月21日、26日、7月9日</p> | <p><b>クロージングセミナー</b></p> <p>2023年2月4日</p> |
|---|--|---|